

# 第3回 徳島駅周辺まちづくり計画策定検討会

## 議事概要

平成29年11月22日(水) 15時00分～  
徳島市役所 庁議室

### 1. 開会

【 会長 】

本日は3回目の検討会であり、より踏み込んだ議論をしていきたい。忌憚のない意見をお願いしたい。

### 2. 第2回の意見概要

【 事務局 】

・資料1の説明

### 3. 議事等

【 事務局 】

・資料2の説明

(1) 徳島駅周辺のまちづくりのコンセプトについて

【 会長 】

事務局の説明に対する内容、あるいはそれ以外の新たな視点など、意見をいただきたい。

本日欠席の、田口委員から事前に意見があったのでそれを説明いただきたい。

【 事務局 】

副会長の意見を紹介

- ・ 特に問題は無いのではないかと。ただし駅周辺を公共交通と歩行者優先の空間にするというのは良いアイデアではあるが、十分に補完できる公共交通のネットワークが成立することが大前提である。

【 会長 】

質問、意見があれば、お願いしたい。

【 A 委員 】

岡山駅のイオンの中には、オープンスペースや多目的ホール(小ホール:音楽や演劇、映画にも対応)が確保されている。それはイオン単独の出資のようである。

イオンができて、若者も集まってきており、イオンにつながる地下の商店街も客が増えているようである。地下には、暑さ・寒さ・雨をしのげるメリットもある。徳島は中洲の砂地であることから、地下道は難しいだろうが、アーケードのような空間を整備する必要があるのではないかと。分断要素があって、買い周りに影響を与えている。

【 会長 】

多目的ホールやオープンスペースは参考にできる。

【 A 委員 】

イオンの開店前に商店街と連携協定を結び、共同でイベントや販売促進を行っているようだ。

【 B 委員 】

東京に行ったが、紅葉したイチョウやイルミネーション、銀座の歩行者天国など、それを見て歩く事自体が楽しさになっている。徳島では自動車しか使わないが、歩くと景色が変わる。

駅周辺は、信号も多くて、徒歩のタイミングに合わず、雨が降ればストレスがたまる。また、スマホの操作などができるような、立ち止まったり座ったりするスペースもない状況である。コンパクトにきれいなまちをつくっていく。それは、住民にも来訪者にとっても魅力になるのではないか。

例えば東京都の木はイチョウだが、市の木は何で、どこで見られるのか。そのようなストーリーも必要ではないか。

【 会長 】

歩いて楽しい事が大事である。空間や景観の点からも議論をお願いしたい。

【 H 委員 】

にぎわい交流軸の考え方は重要である。眉山の歴史など、徳島らしさを出す点で軸の形成は重要になる。全員が公共交通を利用する事にはならないため、その点で、公共交通を含めて様々な選択ができるなど、現状を見据えた対策を検討する必要がある。

計画をつくる事が目的ではなく、いかに実現化するかが大事である。次のステップを見据えてもらいたい。

【 会長 】

にぎわい交流軸はわかりやすい。ハード整備に加えて、歴史的背景を加えるなど、来訪者に分からせる仕組みも大事である。

【 C 委員 】

三宮の交差点を全面歩行者化するプロジェクトもある。その交差点では、自動車の 7~8 万台に対して、歩行者は 60~70 万人が回遊している。徳島でも歩行者の方が多い状況があるのではないか。人を狭い空間に追いやっているのが現状である。タイムズスクエアなど、歩行者の割合を変えて観光地のメッカになった例もある。地方都市でも適用できないか。

鉄道高架が 20~30 年先だと想定すると、大胆な構想を持ってもいい。世界的な潮流で、人が集って活動する場所(通りを含む)を目的地化しようとする流れがある。バスの発着も大事であるが、人が滞留して活動を起こすようなコンセプトを持つ方向もあるのではないか。

鉄道の位置についても、現位置での高架ではもったいないと捉えられる。高架化の際に線路を北側に振るような事も考えられるのではないか。北側に振れば、(高架工事時の)仮線が不要になり、工事コストも有利になると想定される。

駅北側は史跡に指定されており、制約が大きい。南側の駅前広場を広げて、人が集まりイベントができるような空間を作る戦略が良いのではないか。クレメントも完成してからしばらく年月が経ち、ゆくゆくは更新する必要がある。それを踏まえて駅前広場の拡張を考えてもいいのではないか。

【 会長 】

鉄道の線形を現在の計画より北側に変更するという提案である。南側に駅前広場を大きく取れて、イベントスペースを確保し、滞留からにぎわいに繋がられる。高架費用も抑えられるなどもメリットの可能性もある。考慮する価値は十分にあるのではないか。

【 事務局 】

鉄道の線形変更については、県やJRへの確認が必要になる。

【 A 委員 】

現在の線形をさらに北側に変更すれば、商店街に大きな影響が出る。新町川の真上に駅ができた方が商店街としてはありがたい。

【 会長 】

現在の高架案に対して、全く別の案を提案する事は、この会としては難しい。

【 A 委員 】

国道 192 号が最も大きな分断要素である。

【 C 委員 】

国道 192 号の代替機能を確保し、歩行者空間に変えていく最終型もあると思う。鉄道線形については、車両基地の土地を活用すれば、用地の問題はほとんどないのではないか。

【 A 委員 】

鉄道線形を北側に降った場合に、東新町方面に大きな影響が出るのではないか。

【 会長 】

国道 192 号についても都心軸として配慮していく必要がある。線路を北側に振る点については、検討課題とし、それ以上の変更になる場合は、別の委員会として検討してもらいたい。

【 H 委員 】

今の空間であれば、歩行者がゆったり回遊するようなスペースの確保が難しいということである。楽しみや滞留が増えれば、ポッポ街や東新町の方面にも波及していく。通常であれば、歩けるような距離であっても、そのような空間がないために、歩けない状況である。

【 会長 】

駅前広場が広がって効率化されると、様々な点に波及していくことから、大事な点である。

【 事務局 】

・資料 2 の説明

(2) 駅前広場の空間のあり方について、(3) にぎわいづくりのための取り組みについて副会長の意見を紹介

(2)について

- ・ にぎわい交流軸については良いアイデアだが、自動車交通の代替を具体的に示さなくては現実的でないのではないかと。駅近くまで自動車アクセスや駐車できる仕組みを確保しない限り、公共交通の乏しいエリアからのアクセスが難しくなる恐れがある。
- ・ 南北交流軸については、中央公園の北側に強い求心力が発生するため、史跡の活用方法として適切であるかは造園計画の判断が必要ではないかと。
- ・ 仮に中央公園の文化性を意識するのであれば、駅北側の出口付近ににぎわいを受け止める小さな核を作り、静かに中央公園にアクセスするようなメリハリをつけるとよいのでは。

(3)について

- ・ 各事例について、組織の仕組みではなく結果を丁寧にみる必要がある。特にマネジメントの核となる人材をどう確保するかがにぎわいを左右すると考えられる。
- ・ 駅前広場のイベント利用を想定して、ガスや電気、水道などを整備した場合のビジネスモデルを検討してはどうか。
- ・ 駐車場について、商業とのタイアップを前提として、利用料金を下げなくては利便性向上にはつながりにくい。
- ・ 公共空間から極力規制を排除して、様々な利用方法が実現するような素地を創る必要がある。

【 A 委員 】

富山市の事例は、まちづくり会社が運営している。徳島市では、過去にまちづくり会社は不要であるという議論になっていたのではないかと。

【 事務局 】

当時の徳島市では中心市街地活性化法によるものであったが、この事例は都市再生特別措置法によるものである。

【 A 委員 】

高崎市の組織はTMOのような組織づくりがなされており、民間や官・学が組んで管理をしている。そのような組織づくりを徳島市でも進める気持ちがあるかどうかである。

公共施設にして、赤字がでるような事業を進める訳にはいかない。何らかの監理が働くようなまちづくり会社の設立が必要になってくるのではないかと。

【 事務局 】

全てを行政でマネジメントすることは不可能である。組織を立ち上げて、民間組織と連携してにぎわいの創出を目指していく考えである。

【 C 委員 】

このような組織は、早急に立ち上げることが望ましい。都市再生推進法人となれば、道路法上の特例などのメリットもある。そのメリットを活用して、収入源とする事もできる。

民間の知恵ももらいながら上手く進める必要があり、広告や駐輪場で収入を得ていくような流れもある。

【 会長 】

大きな課題のひとつである。高架となって空間ができるまでに、取組を始めることである。

【 C 委員 】

現在の駅前広場内のイベントスペースは使いにくい状況にある。活用しやすい空間を創る必要がある。少しずつでも変えていく必要がある。

【 B 委員 】

徳島市としては、阿波おどりやLEDなどの活用が挙げられる。LEDのイベントをやっている、駅から眉山の間は暗い。街灯やイルミネーションの工夫で、“徳島市は夜がきれい”といった打ち出し方もあるのではないかと。LEDは省エネで徳島らしさもある。阿波おどりは駅前で踊れるようなスペースを確保したい。人が集まってくれば、カフェはいつでもオープンできるようになる。

商店街ありきではなく、人の流れができて、そこに店が集まってくるような流れも必要ではないか。このような事が高架前にできているとよい。

【 会長 】

人が増えてきて、そこに店が集まってくる。その人を集めるために、阿波おどりやLEDを活用するような流れである。

【 A 委員 】

駅から眉山間でのLED活用については、過去から議論をしている。権利や電気代の調整がまとまらなかった。

【 B 委員 】

民間でネーミングライツを売るようなことも考えられないか。地域貢献やまちづくりのために権利を買うという流れである。

【 C 委員 】

道路への広告掲出も道路法の特例で認められる場合がある。

【 B 委員 】

電気代を市が補助するような事があってもいいのではないかと。

【 A 委員 】

境港の銅像を活用したまちづくりでは、地元以外の資本が地元の店を追い出したような格好になってしまったようである。

【 C 委員 】

できるだけ地元資本で頑張ってもらいたいという希望はある。

【 会長 】

空間にLED、歩行者の優先は大事なキーワードである、徳島駅から眉山に繋ぐ軸、その空間をどのように整備していくかも重要である。その点はいかがか。

【 C 委員 】

今のような議論では、駅から眉山に伸びる動線については、全面歩行者化も想定してもいいのではないか。少なくともトランジットモールのように、バス・タクシーのみ通行を認めるような内容である。現在の交通量でも片側 2 車線や 1 車線あれば処理できそうな印象もあるが、自家用車が流入しない工夫は必要である。

【 A 委員 】

送迎車への対応も必要である。

【 C 委員 】

姫路市では、一般車向けの空間は、姫路城に面した北側の駅前広場ではなく別の場所で確保している。それをどのように確保するか検討も必要になる。国道 192 号を止めてまで歩行者空間を拡充するのであれば、環状線も含めて道路の位置づけも検討する必要がある。

駐車場さえ再整備できれば、駅前 1 車線でも対応できると思われる。歩行者向け空間として拡充した場所をどのように運用するかが大事である。イベントやスポーツも考えられる。

【 会長 】

シンボルゾーンを歩行者優先空間とすること、一般車がロータリーに入っていない道路の確保、分断要素の解消も必要であり、それらの方策についても検討してもらいたい。

【 F 委員 】

国道 192 号の機能を別の場所に移すような施策は考えないのか。現状であれば、抜本的な解決にならないのではないか。

【 C 委員 】

車線数が絞られれば、交差点自体がコンパクトになる。バリエーションはいくつかある。

【 F 委員 】

歩道橋が多く、足腰の弱った高齢者の歩行にも影響がある。また、歩道橋は景観の面からも問題である。徳島は宿泊数が低迷している。夜のツアー等、観光客に対するサービスを考える必要がある。いいアイデアがないものか。

徳島城の堀川に面した石垣は全国的にも珍しいようである。夜間にLEDでライトアップすれば、観光資源になる。夏の期間だけでなく、年間を通して設置することが重要ではないか。

阿波おどりの練習風景も、暗い場所でなく明るい照明のもとで観光として演出すれば、観光客の目にも触れやすくなる。

【 A 委員 】

ポッポ街では、水銀灯からLEDに切り替えを行った。その結果、大幅に明るくなり、防犯やイタズラ防止にも効果も出ている。電気代も安くなった。駅付近もLEDを活用すればよいのではないか。

【 B 委員 】

夜に人が増えれば、飲食にとってはありがたい。宿泊者の増加にも繋がるのではないか。

【 A 委員 】

徳島にはいい食材がある。食事のために宿泊する人もいる。食材の紹介も大事ではないか。

【 B 委員 】

人が集まる場所に飲食店は進出してくる。中心街にそのような物があるということは、車を使わなくても生活できるということである。

【 A 委員 】

宮島のタクシーは、コンパクトな電気自動車である。環境にやさしいタクシーで中心市街地を巡るような仕組みがあってもよい。

【 会長 】

ソフト施策として頑張ると、やりがいが出て来る。にぎわいづくりを官民連携で考えていくのも大きな課題である。

【 D 委員 】

今までは、阿波おどりの練習風景は観光資源になるとは思っていなかった。食べ物もそうである。

これからスポットを当てるべきポイントはいくつかある。人が集まってきてにぎわいが生まれるのが自然体であり、イベントによりにぎわいをつくるだけではなく、資源を上手く使って日常から人がいる仕組み作りが重要である。

【 F 委員 】

路上や公園等の公共の場での喫煙は全面禁止する。受動喫煙防止のためにも、路上喫煙は禁止する。喫煙全面禁止を条例化することにより歩きたばこも無くなり、徳島駅周辺の歩道は夜間にも安心して歩ける美しいまちになる。

【 A 委員 】

道路の美化も大事な視点である。タバコのポイ捨てについては、子供の安全確保の観点からも、市の条例に期待したい。

【 D 委員 】

ゴミの問題も同様である。

【 C 委員 】

駅前広場のイベントスペースについては、天理駅前広場の「コフブン」など、コンセプト自体も新しくなっていており、立体的な空間も見られるようになった。

【 G 委員 】

まちづくり会社については、誰がどの程度真剣に考えるのか。決めた事はやりきる事が大事である。富山市のグランドプラザの例を見てもわかるように、まちを動かす能力がある人、例えば、コーディネーターを確保する事が大事である。徳島市でそのような役割を誰が果たすのか。

【 A 委員 】

商工会議所が責任者を努めているまちづくり会社は失敗する例も多い。キーマンの確保が極めて重要となる。

【 会長 】

鉄道線形の変更の考え方、駅前広場から眉山までの歩行者空間の2点について検討を進め、次回の検討会にて改めて提案してもらいたい。

4. 閉会

【 事務局 】

次回は 12 月を基本に調整を実施する。

-以上-